

知識情報・図書館学類誌MILKとは？

M Management

I Information

L Library

K Knowledge

2007年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年2回（7月・12月）お届けしています。
今回は研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENTS

知識科学主専攻

上保秀夫研究室	02
照山絢子研究室	03
松原正樹研究室	04
叶少瑜研究室	06
横山幹子研究室	07
松林麻実子研究室	08

知識情報システム主専攻

宇陀則彦・松村敦研究室	09
鈴木伸崇研究室	11
加藤誠研究室	12
阪口哲男研究室	13
関洋平研究室	14
高久雅生研究室	15
山本修平研究室	16
時井真紀研究室	17
金宣経研究室	18
森嶋厚行・伊藤寛祥研究室 (融合知能デザイン研究室)	19
落合陽一研究室 (デジタルネイチャー研究室)	21
若林啓研究室	23
李昇姫研究室	24

情報資源経営主専攻

鈴木佳苗研究室	25
吉田右子研究室	26
小泉公乃研究室	27
パールイシエフ・エドワルド研究室	28
村井麻衣子研究室	29
小野永貴研究室	30
高良幸哉研究室	31
武田将季研究室	32
原淳之研究室	33
村田光司研究室	34

※執筆を承諾していただいた先生方だけの掲載となります。学生を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご確認ください。なお本冊子に掲載されております情報は2024年9月時点の情報です。

上保研で

猫と過ごす時間は
無駄にはならない

- Sigmund Freud Hideo Joho



照山研究室

1. 概要

- 現在のメンバー : 4年生5名(科学4名、資源1名) / 院生8名(修士6名、博士2名)
- 研究室 : 情報メディアユニオン3階・学系共同研究スタジオ4(303-1)
(常駐可/ソファ・PC等あります) ※叶研との共同研究室
- 形式 : 週1回、2限連続でゼミをしています(ゼミの日程は、学期始めにそれぞれの時間割を確認して、全員が被らない日程を探します)。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし(各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します)。
- 連絡先 : teruyama@slis.tsukuba.ac.jp (照山絢子)



▲本棚には、輪読に使用する書籍や、過去の学生が研究に使用した書籍が配架されています。

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「インタビュー」及び「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。

具体的には：

- 特定の場やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する。
(例) 図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど
- コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする。
- コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します。

受入人数：最大5名 知識科学主専攻0～5名 情報資源経営主専攻0～2名

過去の卒業研究テーマの例

- 山小屋に関する研究：白馬山荘
- 地域移住施策に関する研究：愛媛県八幡浜市
- コンテンツツーリズム(聖地巡礼)に関する研究：兵庫県西宮市
- 発達障がい(ADHD)の人の情報認識・取得の困難に関する研究
- Xジェンダーに関する研究
- ステップファミリーに関する研究

本研究室のおすすめポイント

- 研究室は24時間使い放題
- 鍵付きの研究室の中の設備・備品も充実(エアコン・電子レンジ・冷蔵庫・ソファ・iPadなど)
- 学部生/院生を問わず、留学生がたくさん!
- 研究に必要な本を経費で買ってもらえる
- 合宿がある(例年2～3月頃)
- ゼミへの参加はオンラインでも可能
- みんなが違うジャンルの研究をしていて刺激になる

3. Q & A

Q1. 卒業研究はどのように進めますか？先生に相談しながら進められますか？

A. 基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言を頂きながら進められます。

Q2. 研究テーマはどのようなものがありますか？

A. 過去の学生の研究テーマについては、学類ホームページや希望研究室登録システム HOPE などからご確認ください。内容は人によって様々ですが、特定のコミュニティでのフィールドワークという点は共通しています。

Q3. 飲み会やゼミ合宿はありますか？

A. 飲み会は年に2～3回、慰労会のような形です。合宿は、現地で調査を行う研究旅行です。今年2月には山形県に研究旅行に行きました。

Q4. どのような雰囲気の研究室ですか？

A. 和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生同士でも活発な意見交換が行われ、色々な考え方に触れられます。

Q5. 年間スケジュールを教えてください。

A. 卒論提出までのスケジュールは右の図の通りです。



身体知と



ゼミ合宿 2024@河口湖

特徴

研究者（学生）自らが、身体的実践を継続して主体的に取り組み、得られた経験の分析を通して、体験的な理解と共に知恵を体現する存在になることを目指し社会還元します。

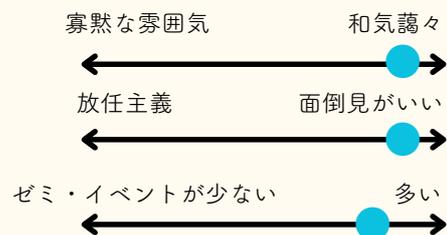
ゼミの進め方

卒論ゼミ：週1回 2.5時間
一般ゼミ：週1回 2.5時間
個別打ち合わせ（任意）

キーワード

身体知・実践知・暗黙知・アート表現
熟達・感性開拓・メタ認知・自己実現
ウェルビーイング・マインドフルネス・観想教育
システム思考・エコロジカル・共鳴・場づくり
質的研究・混合方法研究・一人称研究・オート
エスノグラフィー・アートベースリサーチ
人とAIの認知的インタラクションデザイン

KLIS21生の独断グラフ



芸

術



表

現

研究テーマ例

- エコロジカルアプローチがサッカー中学女子選手の1stタッチに与える影響
- ワイン提供サービスにおけるコミュニケーションの暗黙知
- サッカーの対人間合いにおける「虚」と「実」
- 水彩・油絵の反美学的表現による生きる探究
- 共鳴体験による音楽合奏の間合い体得支援システム



こんな人待ってます

学びの場をみんなと創れる人
自分のフィールドを探求する人
からだを動かすのが好きな人

本研究室ではからだを通じたアート表現によりからだところを観察します。アート経験の有無は問いません。アートに興味がある人、ない人に関わらず、自分自身について深く研究をしたい方は説明会にお越しください。

松原研説明会（途中入退室可）

10/11 13:00～

10/16 ~~13:00～~~ → 10:30-12:15

会場等 詳細はWebpage・SNSへ



Webpage



@MatsubaLab2024



@MATSUBALAB2024

メディア心理学研究室の紹介

- ・ 教員：叶 少瑜 Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 研究室 教員：7D206 号室 学生：ユニオン 303-1
- ・ ゼミ指導：全体ゼミによる進捗報告と共に、必要に応じて個人指導による指導も行います。ゼミは対面とオンラインで併用します
- ★研究内容：主にメディア心理学のアプローチから、対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響を究明するため、主として量的調査法と実験法を用います。
- ★研究に対する捉え方：料理することと同じだと思っています(笑)。



本研究室では、現在以下のような研究を進めていますが、これらに限定されずに、コミュニケーションとメディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお、本研究室は人を対象にする研究するため、フットワークが軽く、人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【メディア使用と心身の健康】

メディアの多用が心身の健康に多く面で負の影響をもたらすことが明らかになっています。しかし、COVID-19 等により人々が必然的にメディアを多用する生活様式になり、如何にすれば心身の健康を保つことができるのか、日本を中心に、香港等との国際比較研究を通じて究明しています。ぜひやってみませんか？

【Before/With コロナと社会的適応】

「モバイル×ソーシャル時代」時代において、COVID-19 の影響で変わった生活様式や対人関係が如何に我々の社会的適応と関係するのかが最近の研究課題として進めています。また、Twitter 等が自殺幫助のツールとして使われた事例から、若年層の不適切なメディア使用を防ぐことができるか非常に重要だと考えます。ぜひ一緒に検討しましょう！

【SNS と居場所づくり】

ここ 10 数年間は新しい SNS の登場によりコミュニケーション行動が大きく変化してきました。例えば、Discord は海外では主にゲームをプレーするために使われるが、日本の若年層が友人との連絡ツールとして使用し、心理的な繋がりを保とうとします。それはオンラインコミュニティが家庭や学校と異なる居場所になる可能性があるのか探ってみませんか？



2016 年度卒論生渋谷さんが
学会発表にて優秀賞受賞



2016 年度卒論生内田さんが
学群長受賞

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

- ① 主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。
 - ・『Le Petit Prince』日本語版における翻訳間の類似性・差異性をグッドマンの記号論を用いて考える。
 - ・ウォルトンのごっこ遊び理論を使い漫才とコントを比較分析する。
 - ・ワイトゲンシュタインの言語ゲーム論を使い宮澤賢治作品における猫について考える。
- ② 哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。
 - ・哲学の方法論として直観は使えるか。
 - ・人の心は脳に還元できるか。
 - ・何をもって同じ人間と言えるか(人格の同一性)

現在のゼミ生の研究課題「『CLANNAD』における幻想世界についての分析:ネルソン・グッドマンの記号論を用いて」は、①

ゼミの概要

募集:3名

長期休暇の例外を除き、週1回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の1週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2時間から3時間です。一人一人が1週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3年生の内にテーマを絞り、4年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

卒業後はどうするのか？

いろんな人がいます。大学院に進学した人(自他)、大学の図書館員になった人、市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、アーカイブ関係、SEやテクニカルライティング関係、金融機関の総合職、専門学校に行きなおしてマッサージュ師という人もいました。最近では、アーカイブ関係やテクニカルライティング関係が多いです。就職が決まったらゼミの先輩がいたとの報告を近年よく受けます。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に着けていただければと思っています。

興味のある方は、横山(mikiko@slis.tsukuba.ac.jp)までご連絡ください。

松林麻実子研究室

指導教員研究室:7D215

学生共同研究室:情報メディアユニオン 4F 405-1
(上保研と共同です)



構成員(2024年10月1日現在)

知識情報・図書館学類 4年次 3+2名(知識科学)

知識科学主専攻 3名, 情報資源経営主専攻 2名
まで受け入れます。

◆指導可能な研究テーマ

情報行動(情報探索・利用・共有・管理など)と情報メディアとの関係について、主として社会学もしくは社会情報学観点から考察することを目指す研究テーマ全般。得意な研究手法は、ユーザ研究では半構造化インタビュー法、メディア研究では内容分析(テキスト分析)・談話分析。必要に応じて実験や質問紙調査などを組み合わせることも。

- ◇ 人間と対話型生成AIなどの情報技術との共生:技術を使う側の視点に立って、新技術は人々の暮らしや意識にどのような変化をもたらすのか、新技術はどのように使えば人間と共生できるのか、について考えます。
- ◇ 若年層におけるニュース消費:従来は、ニュース消費と言えば、(決まった)新聞を読む、もしくはテレビニュースを見るという習慣的かつ受動的な行為を意味しましたが、現在ではソーシャルメディアを介した“ながら行為”が中心であると言われています。また、なかには、コメントを書き込むことで自ら「ニュースに参加」できるようになることもあります。このようなメディアを利用する若年層にとっての「ニュース消費」について考えます。
- ◇ 「趣味」の文脈での情報行動・情報管理:「推し活」の文脈でどのような情報を獲得したり生成したりするのか、獲得・生成した情報をどのように管理しているのか、に関してフィールドワークを通して考えます。

上記のテーマ以外にも広く情報行動研究や情報メディア研究に興味がある人たちと研究活動をやっていきたいと思っていますので、興味がある事柄について話してみてください。

◆ゼミの運営方法

週1回2時間程度の定例ゼミを基本とします。他の仲間が研究活動を進める様子を見て学ぶことも重要だと考えています。プレゼミ(3年次)では興味がある研究テーマに関わる文献検索と読解をメインに、2~3月頃から卒業研究の具体的なテーマを考え始めて、本ゼミ(4年次)では卒業研究のテーマ一本に絞るというペースで進めていきます。研究室に常駐することは求めませんが、卒業研究を優先できる人を希望します。



◆本研究室を希望する場合は必ず面談を受けてください

研究室訪問期間中に必ず面談を受けてください。在室していれば飛び込みでも対応しますが、事前にメールで希望する日時と形式について予約していただくのが確実です。面談で自分の興味がどのようなところにあるかを簡単にでかまいませんので説明できるようにしておいてください。

よく学び、よく遊べ Work Hard, Play Harder

宇陀則彦・松村敦研究室紹介 (用語集)

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいますか？」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。過去には台風を呼び研究会を中止に追い込んだこともある。**異文化交流推進大臣**
宴会大臣をかつこよく言い換えただけ。

うだまつ／うだまつ研

宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

宇陀・松村研プレゼン心得

発表スライドの作成と発表時に考えなければならぬことを五カ条にまとめたもの。その五に「笑いを三つ取る」とされている点に特徴がある。

打ち上げ

卒論の発表会後にうだまつ研究会で行う、自由参加で楽しいイベント。松村研はほぼ全員集まるが、なぜか宇陀研は毎回揃わない。宇陀研が全員揃って参加する日は果たしていつなのか…?

うどん／うどん会

松村先生の好物。つくばにはまともなうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。最近、「やまびこ弁天」へ通う「うどん会」が発足しstackチャンネルもできた。不定期に予定を立てて食べに行っている。目標はメニュー全制覇。

松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、シテム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウエルカム!

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オーブンラボ

毎年研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが直接研究室の説明をする。3年生だけでなく、2年生や1年生も来てかまわない。

お花見ゼミ

ゼミを桜の木の下のブルーシートを広げて行うもの。ゼミというよりはお花見。お菓子を食べたりジュース飲んだりしながら、ゆるーく研究テーマを洗い出す。果たしてこのゼミから生まれた進捗はあるのだろうか…

課題図書コーナー

研究室の一角に設けられた書籍スペース。研究室内外の人が「ぜひ読んでほしい本(漫画含む)」を置いて行っている。最初は宇陀先生のイテイハーサを置くために作った机上スペースだったが、その後作品が増え続け机を圧迫し始めたので移動した。ハマるかハマらないかは読んでみないとわからない。

環境デザイン大臣

旧そうじ大臣。名称の変更に伴い掃除の仕切りだけでなく総合的な研究環境のデザインを担当することとなった。これまでに模様替えやソファー導入の実績がある。

近未来シリーズ

雙峰祭で出展する企画名のこと。2010年に出版して以来、グランプリを3度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。2024年は「近未来ピブリオフェスVSがまじゃんぱー」

でがまじゃんぱーと対決する新感覚フェスティバルを実施予定。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭で、この1週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えない一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。松村先生が✕に投稿する要約は、内輪ネタを一文に切り取っている。たぶんゼミ生以外は理解できない。最近はず席した人の今週を捏造することが流行っている。

情報学学位プログラムリーダー

情報の混沌を極める大学院の教育プログラム「情報学学位プログラム」を背負って立つ者に与えられる称号。現在は宇陀先生がこの称号を与えられている。会議冒頭の「クローズアップ現在」(クロ現)のファンも多いとか。

スクラップボックス (Scrapbox)

研究室運営に関する共有情報、各自のゼミ資料、研究会参加記録など、なんでも突っ込んでおくところ。適度なリンク構造で情報が芽づる式に出てくるため、研究室の外部脳として機能している。

ストレンジス・ファイダー

自分の強み発見をしてくれる診

断テスト。3人の強みから上位5位が分かる。ゼミ配属後にID付きの本が配られ、自分で診断する。研究室で強みを発揮して活動してもらいたいという期待がある。なお、「指令性」を持つ人は、まだ現れていない。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は1時間もかからない。松村研は5時間におよぶことがある。必要に応じて個別ゼミを行うことがある。発表前は連日練習することも。

ゼミ生の可能性を信じてるので

研究に煮詰まった時に、松村先生から発せられる一言。ゼミ生のことを考えて言ってくれている良心的な言葉かと思いきや、特に次の一手が決まっていけないのにこの言葉でゼミが終了するから恐怖。

知識情報概論

2020年度の授業アンケートで全学2位を獲得した伝説の講義。Rさん、Mさん、Uさんという人間に間違われるほどの人工知能が人気の秘密である。

堤先生

心優しい人文社会系の先生。困っている学生に救いの手をさしのべ、発狂するオタクを生暖かい目で見守ってくれる。今やうだまつには欠かせない存在である。冬のコミケに

行く与会えるらしい。最近、これまでの多大なる貢献に敬意を表してエグゼクティブアドバイザーという称号が与えられた。

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと卒論／修論に関わらない研究活動が目的。現地集合、ホテル各自確保という「合宿」の概念を覆す試みを続けている。これまでに、高松、函館、津、青森、熊本、広島、金沢、倉敷、米沢を訪れた。その後、コロナ禍で途切れていたが、2023年頃に富山にて復活。そして2024年、甲府にて新たな伝説が誕生した。

7D240

我らが共同研究室。寺地研とも共同。ソファア、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻ってきて夜を明かす人が続出する。共用プリンタがあるので、出力を取りにきた先生が、しばしば怪訝な目でこちらを見て去っていく。

飲み放題

とあるゼミ生がこよなく愛する宴会の設定。2024年夏合宿で多発した。このスイッチを押すと朝まで同じ話を何度か聞かされるはめにな

るので注意が必要である。

パパコレ

「パパこれ買ってー」の略。研究に必要な文献などを先生に頼むためのStackチャンネルの名前。買ってくれるのは先生なので、先生「パパ」な訳だが、指導教員を「パパ」と表すという何とも業の深い命名である。別にリアルで先生を「パパ」と呼んでいるわけではない。

はるお

某小野研が送り込んできた凄腕スパイのコードネーム。うだまつゼミ生たちを完全に手なづけていて、情報は筒抜けである。2024年夏合宿で機密情報をもんだ模様。少し汚れたシルバニアに盗撮カメラが仕込まれている。Z級映画が好み。

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4人にLサイズ1枚で計算するとちょうどよい。

ビブリオパーティー

2024年夏合宿、一人のゼミ生の勝負心が生んだビブリオバトルの亜種。酔っぱらい相手にコールを要求する手法で場を盛り上げ、この年のチャンプ本をかつさらっていった。

プチ合宿

夏休みの1週間ほど、教室を借り

て、朝から晩まで集中して研究を行う会。みんなで出前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。コロナ禍には、ユニオン1階講義室の広大な空間を少人数で独占するという贅沢を味わうと同時に出前館のお得意様になった。

フリーアドレシ制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

モジモジ

スライド1枚当たりの文字が多く、文字ばかりになっている様子の「文字文字」から生まれた言葉。モジモジしていると聞いている人もよく分からずモジモジしてしまう可能性もある。

夢会

研究室配属後の初ゼミで行う夢を語る会。模造紙に自分の夢を描いて発表する。過去には、「機械の体が欲しい」のような尖った夢から「孫3人と幸せに暮らしたい」とほんわかした夢までさまざま語られてきた。彼らは夢にどのくらい近づいたろうか？

鈴木伸崇研究室

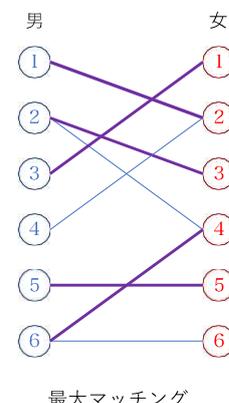
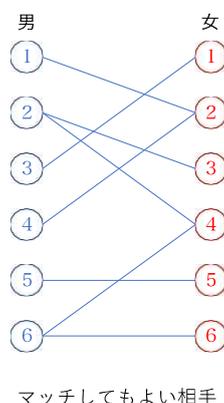
当研究室は、RDF/グラフデータやXML/HTML および CSS などの構造化データ、マッチング理論などについて研究を行っています。老若男女を問わず、意欲のある方のご参加を歓迎いたします。

RDF/グラフデータ 近年、RDF/グラフデータに対して、Shape Expression (ShEx)など記述能力の高い新たなスキーマ言語が提案されています。また、グラフデータにおいて一般的に用いられる問合せとして、パターングラフを用いたものや Property Path などの経路探索を行うものがあります。当研究室では、問合せ式が ShEx に適合するものであるかどうか（充足可能性判定）、問合せ式の包含性判定などを行うアルゴリズムを開発しています。このほか、ShEx のスキーマ進化、大規模なグラフデータの概形・要約を得る（スキーマ抽出）アルゴリズムなどについて研究しています。

XML/HTML/CSS スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています。構造的に正しいXPath 式は通常複数存在するので、グラフ理論を応用し、ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています。このほか、JSONPath やCSS の充足可能性判定、XML スキーマ進化などについて研究を行っています。

電子書籍(EPUB) 自作のEPUBファイルには表紙が与えられていないものが数多くあります。しかし、書籍の表紙は選書の重要な手がかりとなるため、書籍の内容に合った表紙を自動的に生成できれば有用であると考えられます。当研究室では、EPUB ファイルのテキストデータを解析して、その印象に合った色およびフォントの推薦やイラストを推薦するシステムなどを開発しています。

マッチング理論 マッチング理論は、様々な好み・希望を持つ人と人、あるいは人と資源との望ましいマッチングを求めるための理論で、男女のマッチングや研修医の配属など様々な領域に使われています。この理論は主に経済学の分野で研究されていますが、本研究室では、これをクラウドソーシングのタスク割当てなど、データ工学分野に応用することを目指して研究を進めています。このテーマは「理論」ですので、ある程度アルゴリズム・論理的な素養が必要になります。



ご不明な点は鈴木 (nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp) まで遠慮なくお尋ねください。

研究室の基本情報：

学生数：院生3名+学類生5名

ゼミの頻度：週1回+ α ，日程や形式は相談の上決定（現在はハイブリッド形式です）

研究室：7D204（教員），ユニオン3F 学系共同研究室303-2（学生）



情報検索のアルゴリズムを研究しています。6期生募集中。

Web サイト : <http://kasys.slis.tsukuba.ac.jp/>
E-mail : kasys-contact-ml@klis.tsukuba.ac.jp
今年度受入人数 : 科学 0~2、システム 3 (最大 5)
今年度在籍者数 : 学類生 6 博士前期 5 博士後期 2

教員部屋 : 7D 308
学生部屋 : ユニオン2F 共同研究会議室2
週間予定 : ゼミ 75分 個別ミーティング (隔週) 60分
チームミーティング 75分 論文読み会 75分

主な研究分野

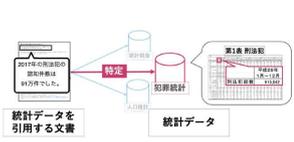
本研究室では**情報検索分野**の下記の研究分野を主な対象としています: 検索モデルとランキング、ランキング学習、検索意図推定、知識ベース構築、知識ベース応用、Web マイニング、情報抽出、検索ユーザ行動分析、検索ユーザモデリング

主な研究トピック

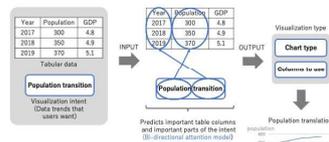
本研究室の主な研究トピックは**知識獲得システム**です:

1. 大量のデータから知識を自律的に獲得するシステムを構築する (例: テキストから因果関係を抽出する)
2. 構造化された知識を人が検索するためのシステムを構築する (例: 人物検索、商品検索)

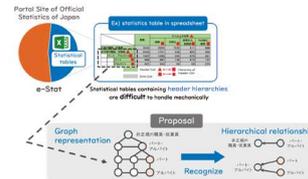
過去の研究テーマ



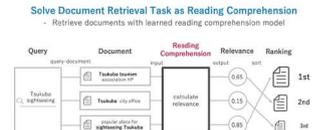
統計データを検索: 「2017年の刑法犯の認知件数は『91万件』という数値の根拠となる統計データを検索



データを視覚化: 表形式のデータに対して自動的に適切な視覚化方法を推定



表形式データを理解する: スプレッドシートに含まれる表形式のデータを理解し、表の見出し認識や階層構造を理解



機械読解によって情報検索する: 機械読解のモデルによって文書検索を行う手法を開発

年間スケジュール (予定)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント		➡		📅		✉					➡		📅		✉	📅
		研究室仮配属		プロジェクト研究発表会		着手発表会					中間発表会		卒論発表会			DEIM 参加

輪講 (週 150分)

教科書輪講とプログラミング輪講があります。教科書は情報検索の基礎 (1月~2月)、言語処理のための機械学習入門 (3月~4月)、しくみがわかる深層学習 (5月~6月) を使う予定です。プログラミング輪講では Python を用いる予定です。

ゼミ (週 75分)

自分の近況などを紹介する時間です。

個別ミーティング (隔週 60分)

基本的に 1対1 で研究の内容について議論する時間です。

チームミーティング (週 75分)

3チームに分かれてチームごとにミーティングします。

論文読み会 (週 75分)

1時間程度で論文を読み、残り時間で議論する会です。

プロジェクト研究発表会

メンターに助けられながら基礎的な研究プロジェクトに参加し、その成果を学内または学外で発表してもらいます。

DEIM 参加

国内で開催される学会。基本的にみんな出して発表します。

阪口研究室とは？

～快適な情報の共有や伝達を求めて～

どんなことをやるのか？

- 今使っているシステムは快適ですか？
 - そうでないなら改善を目指そう！（あくまでも卒研の一環として）
- 快適なアプリの構築を！（構築作業も快適にしたい！）
 - 最近ではLinked (Open) Data の利活用を中心にしていますが、それに限りません
 - 情報の共有や伝達を支える技術を念頭に
 - 情報の共有や伝達を快適に行う（大目標）
 - そのために様々なアプリケーションシステム（アプリ）が構築されている
 - 「快適」には「安全」も含まれる（結果として「安心」も得られる）
 - 外部サービスに頼らず、Webブラウザ内で入門者向けプログラミング環境を
 - 最近ではWebAssemblyにも少し注目中（かつての言語屋魂:-）

最近の主だったテーマ例（他研究室と共同のものもあり）

■ Linked (Open) Data の整備・拡充への Crowdsourcing 利用

■ Linked (Open) Data の開発・接続・検索（発見）の支援

（これまでのテーマ例は下記の3年生向けWebページをご覧ください）

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！

電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑:-)

- ゼミ等: 週一全体ミーティングが通例(+個別指導等)
(2024年度は学類ゼミ3名、大学院生ゼミ1名の体制)

氏名: 阪口 哲男

Webページ: <https://www.sakalab.org/>

(3年生向けWebページはここからリンクします)

Eメール: saka あつと slis.tsukuba.ac.jp

研究室: 7D312 (春日エリア7D棟3階)

共同研究室: 情報メディアユニオン棟3階7F303-2

(学系共同研究スタジオ3)



コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐ**コミュニケーション意図の理解**や、実社会において要求される情報へのアクセス支援について研究を進めています。

教員室： 7D-213
学生研究室： 7D-140
GPU環境： A100-80GB × 4, RTX-A6000
学生数： 10名
OB・OG： 42名

自分の興味を見つける努力をしてください。
企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。

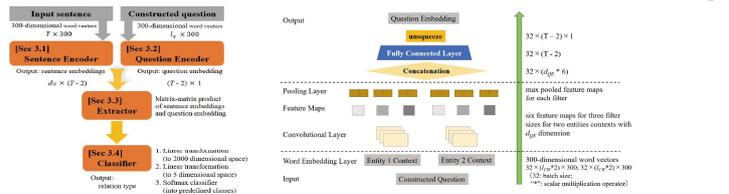
- 台湾、フランス、韓国の研究者と SemEval-2025 において PromiseEval タスクを開催予定
- 東京大学とメタバース上のコミュニケーションの共同研究を開始 (2023 年～)
- 日本システム技術株式会社との共同研究を実施 (2022 年, <https://www.jast.jp/news/15159/>)
- 国際規格開発賞を受賞 (2020 年 9 月 1 日, 2019 年 12 月 17 日)
- おたがいはマトークに出演 (2020 年 9 月 16 日)



社会情報アクセス支援

既存のサービスでは得られない社会情報へのアクセス

質問エンコーダを利用した CNN に基づく関係推定
(国際ジャーナル IJDL 採録, 国際会議 ICADL 2020 Best Paper Award Runner-up)



企業レポートにおける環境・ガバナンスに関する公約の評価
(SemEval-2025 PromiseEval 採録, 国際会議 ICAI 2023 併設 FinNLP-MUFFIN 2023 採録
Multi-Lingual ESG Impact Type Identification / Duration Inference (ML-ESG-2/3))



<https://sites.google.com/view/promiseeval/promiseeval>

音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索 (人工知能学会論文誌 採録)
投稿型料理レシピサイト上で重複するレシピの判別
(人工知能学会誌, 第 14 回 W2 研究会学生奨励賞, 第 14 回 W12 研究会学生優秀ポスター発表賞, CEA 2017 採録, W12 研究会 第 6 回ステージ発表採録, DEIM2016 優秀インタラクティブ賞)

ライブイベントに依存したトピック推移の分析
(情報処理学会論文誌 TOD 採録, ACM SIGIR 2017 採録, DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞, 平成 29 年度 若溪会賞, (ACM SIGIR 2013 採録), 平成 29 年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

実用的レシピの判別 (CEA 2014 Best Paper Award)
印象を考慮したイラスト投稿者の検索
(ACM SIGIR 2013 採録)

スマートソーシャルシティ

市民の声の分析を通じた行政サービスの活性化支援

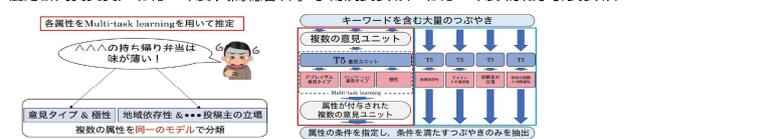
市民意見と市議会議員意見の都市間比較

(国際ジャーナル IJDL 採録, 国際会議 ICADL 2022 Best Paper Award Runner-up, 令和 5 年度 人間総合科学 学術院長表彰)



都市を横断した市民意見の抽出

(言語処理学会論文誌 採録 ×2, WebDB 夏のワークショップ 2022 学生奨励賞, ARG 第 16 回 W12 研究会 優秀研究賞受賞, 令和 4 年度 人間総合科学 学術院長表彰, 令和 2 年度 情報学群長表彰)



都市別のソーシャルメディア投稿を利用した市民の性格特性分析
(DEIM 2024 学生プレゼンテーション賞, ICADL 2024 採録)
外国人観光客のためのスキー場のアスペクトを考慮した評判分析 (IEEE WCCI 2024 採録)
都市環境における歩行者支援のための画像説明文生成 (LREC-COLING 2024 採録)
単語埋め込み表現を用いたイベント参加地域の推定 (令和元年度 情報学群長表彰)
市民のツイートを分類するための関連語の抽出 (平成 29 年度 総代・情報学群長表彰)

市民のツイートをを用いた分散表現に基づく地名に対する市民の関心の傾向の可視化
(日本知能情報ファジィ学会誌 採録, 平成 29 年度 情報学群長表彰)
外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦 (観光情報学会誌 採録, W12 研究会 第 4 回ステージ発表 採録, 平成 27 年度 図書館情報メディア研究科長表彰)
Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定 (ICADL 2016 採録, 平成 27 年度 情報学群長表彰)
地域ユーザに着目したロコミツイット収集 (DEIM2016 学生プレゼンテーション賞)

ソーシャルコミュニケーション支援

言語理解に基づく新たなコミュニケーションサービスの提供

将棋解説文の構成要素を考慮した解説文生成

(日本データベース学会論文誌 データドリブスタディーズ採録, ARG W12 第 18 回研究会 優秀研究賞, DEIM 2023 インタラクティブ優秀賞, スポンサー賞 (株式会社 LayerX 賞), 令和 4 年度 校友会 山崎賞)



単語と文字の埋め込みの結合を利用したネットスラングの抽出
(国際会議 IALP 2022, ICADL 2021 採録)



意外性と納得感を考慮したなぞかけ生成 (令和 5 年度情報学群長表彰)
部首と形状を考慮した中国語の未知語処理 (IEEE IJCNN 2023 採録)
感情推定に基づく顔文字推薦 (言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞)
投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析 (情報処理学会 第 79 回全国大会 学生奨励賞)

宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言い換え
(情報処理学会 第 78 回全国大会 学生奨励賞)
読者の完成を発信・共有するためのソーシャル付箋
(電子情報通信学会論文誌 採録, 平成 24 年度 情報学群長表彰)
Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出 (平成 25 年度 情報学群長表彰)

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

- ・ 教員: 高久 雅生 (たかく まさお)
- ・ 研究室 (居室) 教員: 7D208室, 学生: 7D221共同研究室
- ・ 学生数 (2023年度): 12名 (学類4年次: 6名, 修士: 5名, 博士: 1名)
- ・ ゼミ指導: 研究室全体ゼミによる進捗報告 (隔週) と, 個人ごとの指導 (毎週) を行い, 研究を進めます。
※ゼミや個別面談はいずれも, 学生の希望にあわせて対面・オンライン併用にて実施しています。
- ✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の**真ん中**を扱う研究室です。
- ✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に, システムの構築や新しいアイデア, 実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。
- ✓ こんなひとにお奨め
 - 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい!
 - ウェブ上で流通する便利なデータセットの公開提供や発見などに貢献したい!
 - 情報探索の利用者を支援する方法論や利用者の行動そのものに興味がある!
- ✓ 知識情報システム専攻 (主) と知識科学専攻 (副) から学生を受け入れています。

情報組織化

コンテンツやコレクション群をいかに効果的に整理・記述し, 分類体系や語彙体系を整備するかは図書館情報学が古くから扱ってきた重要な課題であると同時に, ウェブ時代における情報組織化をどのように行って, 共有するかは重要な課題となっています。

高久研究室では, 書誌情報やその他の領域の情報をLinked Dataの方法論により共有する手法, 効果的にLinked Dataデータセットを構築したり, Linked Dataデータセットを探す手法の開発を通じて, 新たな研究領域を切り拓くことを目指しています。

電子図書館

電子図書館は, 図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完, 刷新, 強化し, 新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定, 可視化, 情報抽出, 利用者行動分析等の手法を応用したり, 図書館の現場のニーズに基づくサービス仕様の分析や精緻化といった幅広い役割が求められています。

高久研究室では特に, 検索機能の向上, Web API活用による新機能の提案, デジタルアーカイブズの利活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは, 対象文書群を適切に索引付けし, 利用者の情報要求に基づき, ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析, 文書構造の同定, 文書の索引付け, 文書ランキング, 検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。

高久研究室では, 対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や, 新しい検索手法, 検索インターフェース, 検索評価手法の開発を目指しています。

情報探索行動

情報探索行動とは, ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し, それらにかかわる要因をモデル化し, 探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では, ウェブ環境下での記録機器, ソフトウェア等の発達により, 精緻な情報探索過程の計測が可能となってきました。

高久研究室では, 探索過程の記録ツールの開発から, 探索記録からの知識発見, 探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発, 特に, 探索タスクや情報ニーズが探索行動に与える影響の解明を目指して研究しています。

過去の卒業論文テーマの例

- ・ 多様性リランキングにより栄養バランスを考慮したレシピ気分検索システムの評価
- ・ 特定主題における複数図書館のコレクション比較の可視化に関する研究
- ・ 既知事項検索を指向した楽曲の曖昧検索手法の提案
- ・ Instagramの写真を利用した飲食店検索支援システムの構築
- ・ 日本のテレビ放送における番組のシリーズを同定する手法の開発
- ・ 化粧品の購買支援のためのSNS情報の抽出提示手法の研究
- ・ 新書本を用いた学問発見支援システムの構築



連絡先: 高久 雅生

- ・ Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ Twitter: @tmasao

時井研究室

情報の**可視化**をテーマに研究をおこなっています

知識の集約、伝達をテーマに

2016-2023 年度 AR + 絵画鑑賞, 知識集約, 身近な科学, 探究的学習,
Kinect + 浮世絵, オノマトペ, 調理 + 論理的思考, 数学的リテラシー, 可視化支援,
スポーツ + 可視化支援, データリテラシー + 地理情報, 統計学 + AR,
ジャーナリズム + AR, ランニング + データ解析, データリテラシー + 批判的思考
パラドックス + AR, 浮世絵を読み解く

2024 年度 空手 + ことば, 浮世絵 + 物語 or 歴史 or 数学

相手との距離は？

どんなことを
意識しながら
動いていたか。



この魚はどこへ。

調理方法は？
どのあたりの
風景？



浮世絵の
色の特徴は？
どんな曲線が
浮世絵には
隠れている？



年間スケジュール

- 10月 オープンラボ
- 12-2月 基礎勉強、研究調査、
- 3月 研究会等で研究調査
- 4月～ システム開発、実験、論文執筆
- 3月 学会発表



どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。などなど、
デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、テーマを具体化していきます。



図書館との展示

元データ → メタデータ → 挿入可能なデータ → ビュー

例えば
ランニングデータの活用
足元、腕、腕にセンサーを付け
データを取得
他者との比較により、自身の走りを知る
→ データへの興味を生み出す

データを読み解く
データとの出会いを生む

可視化プロセスを習得し
データを多角的にみる
→ 批判的に結果をみる思考を養う

データへの興味を引き出すところみ

グラフによる表現、ARを用いたインタラクティブな
操作により興味を引き出す試み など

金宣経研究室 人間・情報・技術研究室

- ・ 指導教員：金 宣経 (きむ せんきょう)
- ・ 教員部屋：7D 315 / 共同研究室：ユニオン共同研究スタジオ 3
- ・ 連絡先：kimsun@slis.tsukuba.ac.jp



研究分野

下記の研究分野を主な対象としています。

ヒューマン・ロボットインタラクション、学習支援システム、認知科学

これまでの卒研テーマ

2024年度

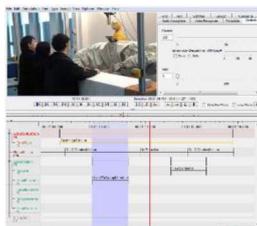
1. 信頼性判断をサポートする検索システムの提案
- 情報探索行動の変化を中心に -
2. 感情の可視化および感情認識に関する研究
3. 情報リテラシーの理解を深めるためのゲーミフィケーションシステムの提案
4. VRによる視覚的錯覚を通じた現実世界の物体の重量知覚操作

2023年度

1. 人からヒューマノイドロボットへの説明時に現れるジェスチャーに関する研究
2. 情報の信頼性判断におけるインターネット検索の意義
3. e スポーツプレイヤーに向けたチーム内フィードバックシステムの提案
4. 書道介入がもたらすストレス軽減効果—心理学的指標と生理学的指標による評価—

主な研究手法

1. 人を対象にした実験
2. ビデオ分析
3. アンケート
4. アイトラッキング



受入人数

知識情報システム主専攻・知識科学主専攻 3名

受け入れの条件

1. 研究室説明会に出席すること。
2. 秋学期授業「Human-computer Interaction (英語の授業)」を必ず受けること。
3. 研究計画書をメールで送ること。
4. 面談をすること。

年間スケジュール

1～3月：基礎勉強、ミニ実験実施
4月～5月：倫理審査申請書の準備
6月：着手発表会
7～8月：データ収集

- 🍉 9月：夏休み
- 🗨️ 10月：中間発表会
- 📊 10～11月：データ分析
- ✍️ 12月：卒論執筆
- 📅 1月：論文提出、最終発表会

週1回2時間程度ゼミを行います。ゼミでは各自の研究進捗を報告し、先行文献をもとに討論を行います。

個別ミーティングについて

月1回 30～60分

1対1で研究について話し合います。緊急の話し合いが必要であれば、追加ミーティングをリクエストすることができます。

■ 研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

Human-in-the-loop(ヒューマンインザループ)とは機械が得意な作業と人間が得意な作業を組み合わせ問題解決の考え方です。今後の社会をデザインする重要なキーワードとして注目を集めています。本研究室では、ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています。



クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」や「フィールド実践」を研究することが特長です。研究テーマの決め方はプロジェクトを引き継ぐ、新たに与えられる、自ら提案するなど様々です。

■ 主な活動

ゼミ週3時間(研究, 文献調査, 開発), 個別ミーティング週1回, 勉強会随時, 合宿, 国内・海外学会発表

■ 過去の主な進路

Amazon Web Service Japan, 青森放送, ウェザーニューズ, SCSK, NSSLC サービス, NTT 研究所, NTT コミュニケーションズ, NTT データ, NTT ドコモ, オールアバウト, キヤノン, クックパッド, コーエーテクモゲームス, 高校教員(情報科), サイバーエージェント, 新日鉄住金, スミセイ情報システム, ソフトバンク, DMM, トーアエイヨー, 日本NCR, 日本マイクロソフト, 野村総合研究所, Preferred Networks, 日立製作所, PWC, 富士通, マックスプランク研究所, みずほ情報総研, Yahoo! JAPAN, 楽天, リクルート, ワークスアプリケーションズ

■ 詳細情報

説明会詳細は研究室 Web サイトに掲載します。募集人数: 創成学類 3 名, 知誠学類 3 名程度

面談問い合わせ先: fusioncomplab-staff@ml.cc.tsukuba.ac.jp (森嶋・伊藤) <https://fusioncomplab.org>



2025 Is Digital Nature Group 10th Anniversary!

Digital Nature

計算機自然は、人と機械、物質と実質の間に多様な選択肢を示す

Undergraduate Student Wanted!

デジタルネイチャー研究室へようこそ

デジタルネイチャー研 卒業研究生の募集

seamless combination of computational resources
and non-computational resources

配属予定人数:

知識情報システム専攻2(情報メディア創成学類6)

Faculty Member

在籍する教員



落合 陽一

Yoichi Ochiai

実世界志向コンピュータグラフィクス、ヒューマンインターフェイス、メディアアート



伏見 龍樹

Tatsuki Fushimi

音響浮揚、波面ホログラム、非線形力学



李晶晶

Jingjing Li

コミュニケーションデザイン、デジタル展示、デジタルメディアに対するユーザ評価

テーマは教員とゼミ生のディスカッションの上、学生が希望するテーマを1から考えます。その際に、世界的なメディアアートイベントやトップカンファレンスに通じ得る程度のインパクトがあるテーマになるまで吟味します。

指導可能な研究領域

- バーチャルリアリティ/オーグメンテッドリアリティ
- ヒューマンインターフェース
- コンピュータグラフィクス
- 視覚・聴覚・触覚ディスプレイ
- エンターテインメントコンピューティング
- メディアアート
- バイオアート/バイオファブリケーション
- テレプレゼンス
- デジタルファブリケーション/マテリアル

過去の卒業研究題目(知識情報システム専攻卒業生のみ)

- Impression of the sound of rain hitting umbrellas
- Proposal of a new meat cooking method using High-intensity focused ultrasound(HIFU)
- MeDaCA: Method of Direct Manipulation and Conditions for Acoustic Tweezers Grasping Medaka
- イテレーティブデザインを用いたロービジョン者の買い物支援方法の検討
- 視覚障害者のための情景説明
- マイク・イン・ザ・ループによる音響ホログラムの最適化
- Goshuin 2.0 –Construction of the World’s Largest Goshuin Dataset and Automatic Generation of Goshuin with Neural Style Transfer–
- Blind Badminton — System Development to Recognize a Flying Object without Vision —

Digital Nature Group all rights reserved.

選考方法は次のページへ →

選考方法

やる気と実装能力を考慮して選考します

テーマは教員とゼミ生のディスカッションの上、学生が希望するテーマを1から考えます。その際に、世界的なメディアアートイベントやトップカンファレンスに通じ得る程度のインパクトがあるテーマになるまで吟味します。

研究をすすめる上で学生に求める条件

- 01 研究へのやる気・継続意思がある
 - 02 研究を好み、毎週進捗がある
 - 03 困ったら質問・相談できる
- ・本研究室はトップカンファレンスやトップジャーナル、メディアアートの世界的な展示、それらの社会訴求によるインパクトを目指して一丸となっている研究室です。やる気があって研究が続けられることが条件です。
 - ・学生に求められる姿勢は、研究を好むこと、毎週自分の研究テーマについて少なくとも5分間報告できることの2点です。
 - ・コミュニケーション能力が高く、わからないことを質問できる、一人で悩まず誰かに相談できる能力が高い人が望ましいです。

卒業研究生への研究サポート

メンター制度

ひとりひとりにメンターがつきます。分野の近さや個人の能力など総合的な観点から担当の先輩を決定します。研究活動だけでなく私生活についてなどなんでも相談できる頼りになる存在がいます。



学生間での自主ゼミ

学生の自主的に研究する能力を鍛えることを目的に学生同士での相互チェックが大事にされています。分野別学年別などで自主的にゼミを開催し、定期的に相互チェックをしています。



フレックスな研究環境

研究室にはコアタイムがありません。そのため、自分の生活スタイルに合わせて研究することができます。完全フルリモートの人もいれば、毎日住み着いているような人もいて、自由です。



[Digital Nature Group HP/NEWSにて公開される](#)
[\[デジタルネイチャー研への卒業研究室配属について\(2025\)\]を必ずご覧ください。](#)

※より詳しいゼミ形式や現役生からのメッセージなどを掲載した研究室紹介パンフレットが公開されます！

機械学習・言語理解研究室 (若林研究室)

指導教員：若林 啓 (7D207)

メンバー構成：9名 [M2:4, M1:2, 創成:3] ※ 2024.10 現在

学生研究室：情報メディアユニオン棟 4階 客員研究室 (403)

研究室 web サイト：<https://tzkwkblab.github.io/wkblab/>



研究テーマ

本研究室が明らかにしようとしている問いは、「言語を理解するとはどういうことか」です。この問いに答えるために、機械学習の計算機シミュレーションによって、人間以外の動物のコミュニケーションの方式から人間の言語に進化するまでの、失われた段階を計算論的に解明する研究を進めています。自然界をモデル化した仮想環境を設定して、その中に機械学習エージェントの集団を置き、環境や他エージェントとのインタラクションを通して学習を行わせます。そのダイナミクスの中で、彼らはコミュニケーション方略を学習したりしなかったりするのですが、どのような環境条件や過程の中で「言語らしい」性質を持つコミュニケーションが創発するのかを研究します。また、このような研究を通して得られた知見が、どのように言語を扱う人工知能技術の発展に活用できるかを考えます。

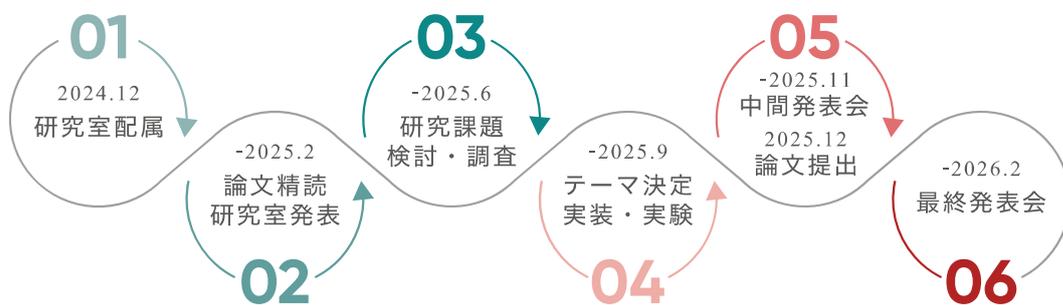
研究室の見どころ

- ・最新の言語起源研究について学べます。
- ・機械学習の中でも、特に強化学習手法を学べます。
- ・自由な雰囲気の研究課題に取り組みます。
- ・MacBook (貸与)、計算用サーバが利用できます。
- ・Slack や GitHub を活用した環境です。

研究をすすめる上で望ましい条件

- ・実装力がある、あるいは実装力を身につけたいという熱意がある。
- ・必要なら数式にも立ち向かえる。
- ・言語の起源に興味がある。
- ・他のメンバーと協力して研究に取り組める。
- ・英語の論文を読むことに強い抵抗がない。

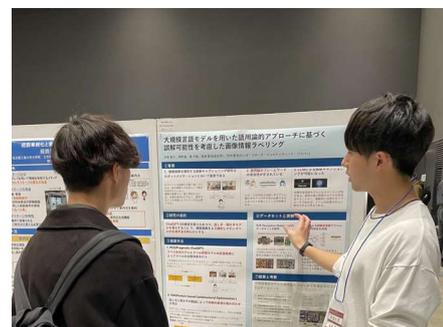
研究室配属から卒業までのスケジュール (予定)



- ・週2回のオフィスアワー (13:00-16:00) を実施しています (長期休暇期間は任意参加)。
- ・学会発表 (JSAI, DEIM) を積極的に目指します。

過去の卒業研究テーマ例

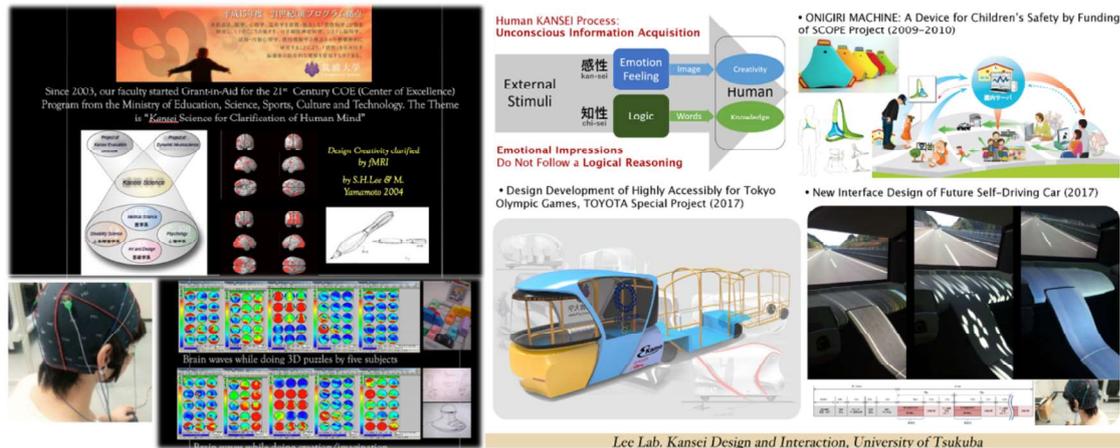
- ・マルチエージェント強化学習環境下でのコミュニケーション創発過程に関する研究
- ・マルチエージェント強化学習における観察学習の創発に関する研究
- ・大規模言語モデルを用いた語用論的アプローチに基づく誤解可能性を考慮した画像情報ラベリング



DEIM2024 (ポスター発表)の様子

配属希望の方へ

- ・指導教員との個別面談を経て選考、配属となります。面談に関する情報は、研究室サイトをご覧ください。
- ・オープンラボ日程：10月15日(火) 14:30～



Lee Lab. Kansei Design and Interaction, University of Tsukuba

Kansei Design LEELAB.は、2002年からこれまで博士後期修了7名、博士前期課程修了21名、学群卒業32名の指導をしてきました。現在は、博士後期課程1名、博士前期課程3名、研究生5名、交換留学生多数を指導しています。

卒業・修了生の進路: Team Labo, Apple Siri Shanghai, 三菱自動車, マツダ自動車, ホンダ自動車, ゼーブラ, Panasonic, 女子美術大学, 阪南大学などです。



LeeLab.の研究テーマ:「人間の認知行動の可視化による感性の働き」であり、感性デザイン学, 感性情報学, 感性認知行動, 感性メディア, Human Computer Interaction 分野など人間の感性と行動に関する幅広い研究分野を指導しています。

卒業指導: 1~2名

研究室ゼミ: 毎週1回3-4名(発表順あり)の研究進捗報告, 全員でコメントを行います。発表の無い学生も5分程度の進捗状況の報告があります。基本的に大学の卒業論文提出日程に合わせて進行します。留学生は英語で発表する場合があります。英語の会話実力をつけたい学生は大歓迎です。

研究室の環境: 総合研究棟D(校内カスミストアの前)501~503. 天久保池と桜の展望あり。

研究室の設備: 3Dプリンター(2台)レーザーカッター(大型1台)電子工作可能な工房あり。

現在, 研究室の学生たち(主に修士と博士の一部)の研究テーマです

- Third place visits and associations with walking habit formation: An exploratory study extending Cognitive Chrono-Ethnography サードプレイスと歩行習慣の形成の関係性: 認知的クロノエスノグラフィを用いた探索的研究
- Exploring the Effects of Participatory Algorithmic Management Supported by Affective Computing User Interfaces on Worker's Wellbeing 感情コンピューティング・ユーザーインターフェースを用いた参加型アルゴリズム管理が労働者の幸福度に与える影響の探索的研究
- Verification of a Bidirectional Haptic Communication Device with Thermal Feedback 熱フィードバックを備えた双方向触覚通信コミュニケーションデバイスの検証
- Examining the Significance of Personality in Multimodal Imagery Cognition: An Investigation of the Visuo-Haptic Mental Imagery of Painting Majors 視覚的情報の多感覚処理におけるパーソナリティーの影響に関する調査—絵画を専門とする学生の視触覚メンタルイメージを中心に—

※これまで研究室で行った大型研究プロジェクトの事例です。

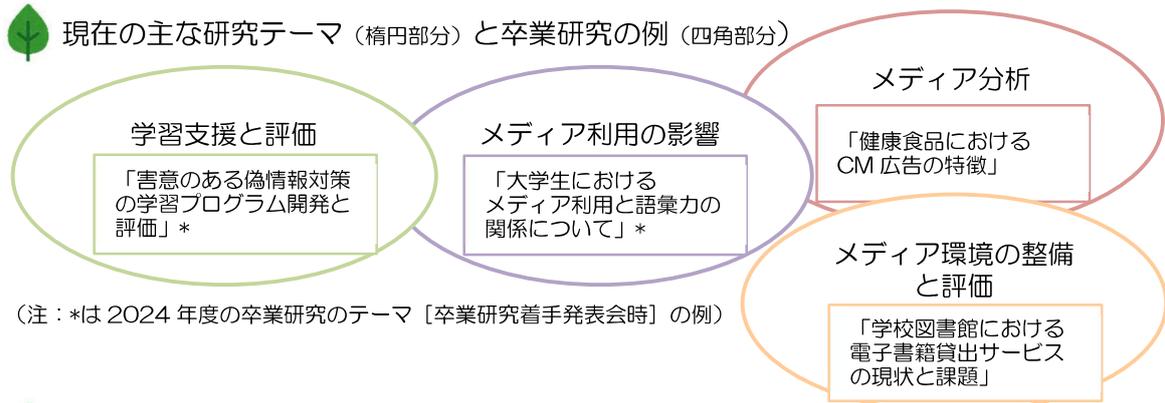
- 「認知的クロノエスノグラフィに基づくエンタテインメントプロダクトのデザイン構成法」 科研費
- 「子どもの安全・安心のための域情報共有システムの研究開発」 総務省ICT SCOPE プロジェクト
- 「行動選択・記憶に関する認知行動科学理論に基づいた適応的問題解決能力涵養環境の構築」 科研費
- 「次世代の車両開発における五感に対する刺激」 トヨタ合成株式会社、東京モーターショー展示
- 「高度アクセシブル社会実現に向けた基盤研究」 トヨタ自動車&筑波大学特別プロジェクト

研究室紹介 鈴木佳苗研究室



鈴木佳苗研究室では、さまざまなメディアを活用して行う学習支援と評価、個人のメディア利用とその影響、メディアが伝えるメッセージの分析、個人の生活や学習などを豊かにするメディア環境の整備と評価などに関する研究を行っています。

このような研究テーマに関心がある人は、卒業研究指導方針を確認し、ご連絡ください。



卒業研究のキーワード：メディア、メディア教育、情報教育、学校、学校図書館、公共図書館、調べ学習、探究学習、リテラシー、社会性など

主な研究の方法：調査、実験、内容分析など

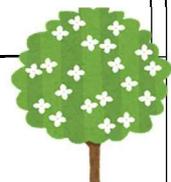
主な研究対象者：幼児、小学生から大学生、保護者、学校関係者、図書館関係者など

2024年度研究室学生：学類生3名（情報資源経営主専攻）・大学院生6名

募集人数：3名（情報資源経営主専攻・知識科学主専攻）

研究室 Q & A

Q1. ゼミ・学生研究室について		
A. 週に1回ほどのペースでゼミを行っています。ゼミ開催日は相談して決めます。学生研究室は7D130室です。		
Q2. 研究のスケジュールについて		
A. 以下のようなスケジュールで卒業研究を進めていきます。		
12月～6月まで ・自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学ぶ ・卒業研究の目的と方法を定める ・卒業研究着手発表会（6月）	6月～ ・卒業研究のデータ収集・分析方法などを進める ・卒業研究中間発表会（10月） ・卒業研究の執筆	1月 ・卒業研究提出 ・卒業研究最終発表会
Q3. 現在行っている研究プロジェクトについて		
A. 調べ学習支援に関する研究プロジェクトを進めています。学習プログラムを開発し、その効果の検討などを行っています。この研究プロジェクトへの参加も可能です。		

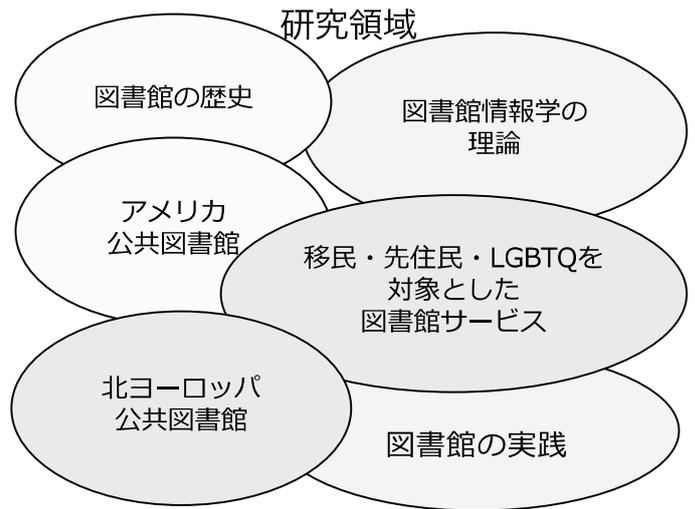


研究室紹介 吉田右子 (研究室410)
 yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



BIBLIOTEKET Renlemesiervej, København Denmark

ゼミ募集人数：3名
 ゼミの頻度：週1回



現在の研究関心

- 社会的に孤立した人びと・不利な立場に置かれた人びと：移民・難民、先住民、LGBTQ、経済的困窮者、非識字者
- 研究方法：資料調査・フィールドワーク
- 研究課題：文化的格差の解消にかかわる公共図書館の可能性



卒業研究の領域と研究方法

- 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関する実証的研究
- 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的な研究



Entressen kirjasto, Finland

これまでの卒業研究

詳しくは卒業研究指導方針のリストをどうぞ！

- セクシュアル・マイノリティの子どもを対象としたアメリカの公共図書館サービス
- スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービスについて
- オーストラリアにおける先住民民族に対する公共図書館サービス
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- アイヌ文化継承活動の現状と課題



OBA Ubung, The Netherlands

研究室配属から卒業論文提出まで

12月	研究方法について学びます
1月	研究テーマについていろいろな角度から検討して研究のフレームを固めていきます
2月	先行研究の調査【ゼミ内発表会】
3月	研究テーマの確定
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月・8月	本調査
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】



研究領域：図書館のマネジメント・ガバナンス

図書館および類縁機関が、知識や情報をどのように管理し、どのように市民に提供するの、それらにより社会の課題をどのように解決していくのかについて、(1)政府（公共政策）・(2)図書館（経営）・(3)市民（図書館の利用者）・(4)図書館を支える理論の切り口から、実証的あるいは理論的な研究をおこなっています。

10月中旬、実施！
オープンラボ

近年の研究テーマ

多彩



MEMBERS

博士後期：8名
(社会人6名)
博士前期：7名
学類4年：5名

活動

- ◆ ゼミ 月1~3回
- ◆ 個人面談 月1~3回
- ◆ 合宿 年2回(3月・9月頃)
- ◆ 学会参加 希望者は随時
- ◆ 慰労会等 年3~4回

進路

大学院進学・公務員(司書・行政)・民間等

雰囲気・スケジュール

- ◆ 学生同士の関係はとても和やかです。研究室のセンターテーブルを囲んでの談笑もしばしば。
- ◆ ゼミでは活発に議論が行われ、研究や発表内容の課題を指摘しあうことで論理的な思考が鍛えられます。
- ◆ 3年生は配属後、研究法に関する入門書の輪読等を通して基礎知識を学びます。その後、3月中に卒業研究のテーマを定め、4月以降本格的に卒業研究に取りかかります。研究は個人面談を中心に進みますが、卒業研究の発表1か月前から複数回開催されるゼミの質疑応答で、内容をさらに精練していきます。

小泉研究室

“図書館と地域の未来を共に創造しましょう。”

✉ 連絡先
Koizumi@slis.tsukuba.ac.jp

配属

合宿

共同研究

着手

合宿

中間

卒論提出

研究テーマ決定

各自研究を進める

論文執筆

アーカイブズ学研究室

指導教員プロフィール

バーリュシシェフ、エドワード (Eduard BARYSHEV)

7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

学生研究室 情報メディアユニオン 407-1 号室 (白井先生と共同)

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録、②上記の記録が保存されている機関および施設

研究領域

- アーカイブズ学理論全般
- 各国の記録管理と文書館 (記憶継承施設)
- 各国のアーカイブズ文化とアーキビスト教育
- 保存記録の管理・利用に関わる諸問題
- 記録媒体と情報処理
- 歴史記録 (アーカイブズ) と史料論
- アーカイブズの政治的・社会的な機能性



卒業論文例

- 現代ドイツにおけるアーキビストの養成制度
- 文書館における展示活動に関する研究
- 文書館建築の認識に関する研究—イタリア共和国を事例に—
- カザフスタンの文書館制度
- 震災伝承施設の機能と課題—アーカイブズとの関係を中心に—
- 災害に関する動画資料の収集と利活用

指導方式

- 隔週、ゼミ方式の授業 (2 時間程度) を行う他、個別に相談できる時間を設けます。

記録遺産に関心を持ち、過去、現在および未来におけるドキュメントの在り方について学び、国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!



保存記録 (アーカイブズ) の管理および利用の様子 (英国国立公文書館、ロンドン)

著作権法の研究室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献の収集を行い、それらの情報に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週1回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻

指導教員：村井麻衣子

募集人数：3名

* 研究生や大学院生がいる場合は合同で行います

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を法的に規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上の論点や制度を取り上げてかまいません。

例えば・・・

- ・図書館と著作権法：最近の著作権法改正を踏まえつつ検討
- ・AIと著作権：公的な機関の資料や論文をもとに検討
- ・特定の裁判例の研究：実際の事例を判決文などを参照しつつ検討

ゼミの進め方・全体スケジュール

ゼミでは、著作権法の基礎を確認してから（目安：12月～3月）、各自のテーマに関連する資料の内容の発表してもらったり（目安：春 AB 頃まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらおう（目安：春 C 以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。9～10月頃までに論文の初稿を完成させることを目指し、11月～12月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージです。

関連科目

「知的財産概論」、「知的財産権論 A」、「情報社会と法制度」、「情報法」などの法律系科目が関連します。研究室を希望される場合は、「知的財産概論」、「知的財産権論 A」を履修していることが望ましいです。特に、「知的財産権論 A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

詳しくは・・・卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、遠慮なくメールで連絡してください。



研究室概要

図書館情報メディア系 小野 永貴（おの はるき）

- ・ 専門分野： 学校図書館，情報教育，図書館情報学 等
- ・ 教員研究室： 7D114室
- ・ 教員連絡先： milkya@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 学生研究室： 7B240共同研究室
- ・ ゼミ形態： 原則週1回（長期休暇中などは長めのゼミを不定期実施）

本研究室が扱う研究領域

人々は学習するとき、本や論文など、何らかのメディアを利用しながら学びます。特に中高生の場合、デジタル教科書や授業映像といった電子媒体も、重要な学習メディアとなります。

現在の中学・高校で行われる探究学習は高度化しており、これらの多様なメディアを駆使して学ぶことが、中高生には求められます。しかし、これは大変難しいことで、誰もが最初は不安を抱えるものです。

この不安を解消し、中高生が安心して探究成果を生み出せるようにするには、よりよい指導法の確立や支援システムの構築が望まれます。

本研究室では、この実現に必要な基礎データや要素技術を明らかにすべく、様々な学校現場と連携しながら実践的な研究を行っています。

（昨年は、筑波大学の附属校や軽井沢の私立学校と連携研究を実施しました）

キーワード

学校図書館
本棚・書架・展示
探究学習・授業支援
高校「情報」教育
情報倫理・研究倫理
図書館不安・研究不安
ビブリオバトル
プレゼンテーション
中高生の発表指導

今年度のメンバー募集

本研究室は2022年度に新設された研究室です。今回は第4期の募集となります。まだ人数も少ない小規模研究室ですが、研究室の活性化へ前向きに関わって下さる皆様を歓迎します。詳細は「卒業研究指導方針」を必ずご覧のうえ、事前面談にお越しくください。

<募集人数> 情報資源経営主専攻：定員3名 / 知識情報システム主専攻：2名以内

特に今年度は、以下の関連テーマに関心をもつ方を、重点的に募集します。

1. 知的書評合戦「ビブリオバトル」に関する研究
2. 中学・高校の探究学習における成果発表の指導や、プレゼンテーションの向上支援
3. 中高生の本棚に対する意識の解明や、学習テーマに応じて本棚や展示を動的に再現する技術開発
4. 学校図書館における情報センター機能：ICT機器の導入効果や生徒の活用実態
5. 探究学習を指導できる司書教諭の養成：現在の司書教諭課程の課題とは？
6. 校内の出来事を記憶する学校図書館：学校の動画アーカイブとしての学校図書館の可能性
7. 高校の教科「情報」の指導実態：大学入学共通テストへの導入の影響は？



高良研究室

○ゼミの概要

高良研究室は情報法分野を研究する研究室です。

情報法領域は、情報通信技術と法に関するICT法の領域、メディアと法に関する領域、情報保護や情報の利活用と法に関する領域です。

情報法に関する領域であれば、幅広く研究可能です。

○募集人数

3人（最大5人）

○ゼミの頻度

ゼミは原則週1回です（プレゼミ・卒研ゼミ共通）。現在、日時は固定せず、ゼミ生と日程調整を毎回行っています。少人数の場合は柔軟に対応します。

○これまでの卒論テーマ

高良研究室は2021年度から始まった新しい研究室です。これまでのゼミ生の研究テーマは、名誉毀損、情報公開法、個人情報保護法、AIと法、メタバースと法、ヘイトスピーチ、児童ポルノ規制などです。

○卒論指導方針

プレゼミでは法律文献に慣れてもらうために、法律論文の輪読を行います。

4月からは、各自文献調査を行ってもらい、毎回ゼミで進捗状況の確認と指導を行います。希望に応じて個別指導を行います。

○指導教員：高良幸哉

2020年1月から筑波大学勤務

研究テーマ：刑事法（サイバー犯罪・児童の権利保護など）、情報法（情報通信技術と法、情報保護など）

○連絡方法

高良にアポイントを取る必要がある方は、takara@slis.tsukuba.ac.jp までご連絡ください。

1. 研究分野

- ・ユニバーサルサービス, 障害者サービス, 高齢者サービス
- ・インクルーシブなコミュニティ形成
- ・（図書館に限定しない）人（行動や認知, 心理）と情報の関わり

関連するキーワード

図書館, ユニバーサルサービス, 高齢者, 情報行動, 学習
認知, 心理, 定量分析, 人間

2. ゼミ概要

- ・週1回 1-2時間程度（曜・時限は相談の上決定します）
- ・オンライン（Teams, Zoom）と対面の併用
- ・進捗の報告とディスカッション（それぞれの人が毎週）

3. 年間スケジュール（目標）

12月-1月	研究のための基礎学習, 先行研究の調査
2月-4月	研究テーマ決定, 研究計画, 調査（実験）計画
5月	着手発表会準備
6月	着手発表会
7月-8月	調査（実験）準備
9月-10月	調査（実験）
10月	中間発表会
11月-12月	分析, 論文執筆
1月	論文提出, 最終発表会

4. 過去の卒業論文のテーマ

[2024年度]

- ・日韓の認知症専門図書館における取り組み
- ・茨城県の中学校・高校における 図書室登校の実態

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、社会における多様なメディア（図書館情報資源）の特徴やそれと読書や図書館との関係などを、日本語や英語で研究する学生が集まっています。

例えば、今年度のゼミ生は、イギリスの公共図書館で広がる地域のメンタルヘルス向上を目指す新しい読書推進事業の研究、若者を主役とする映画作品における感情表現の特徴を分析する研究、アメリカの読書相談サービスの理論を踏まえた読書案内ツールの研究、デジタルゲームのレビューの分析を通じたゲームの評価要素を抽出する研究に取り組んでいます。年度によっては絵本、アニメ、漫画などを研究する学生もいます。ゼミ生は4名(写真)です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるのですか？

研究方法は各自のテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めています。質的・量的な調査のどちらも考えられます。テキストの語彙を量的に分析したり、インタビュー調査をしたりすることもあります。エビデンス（根拠となる事実やデータなど）に基づいた研究を意識しながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究では、そうならないように気をつける必要があります。研究方法（質的・量的）が多様であるせいか、高校のときの文系／理系を問わず、どちらの学生も研究室に所属しています。

研究指導は教員の研究室（対面）やオンラインで、週1回のペースで行っています。個別指導のほかにも、みんなで集まって研究報告をしたり、一緒になって考えることもあります。論文はもちろん各自で執筆しますが、学類の研究発表会の前には、みんなでプレゼンの練習をしたりもします。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあります。ドイツの図書館に興味のある学生もいましたらどうぞ相談して下さい。

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。ここ数年は新型コロナウイルス感染予防への対応から難しかったのですが、例年は、みんなでゼミ旅行（軽井沢、那須高原、湯西川温泉など）に行き、さらにバーベキューや花見などをする年もあります。海外から研究者や学生が研究室を訪ねてくるときには、英語でのコミュニケーションにも挑戦してもらいます（今年はドイツのメディア専門の大学から先生が来室します）。ところで《進学・就職》ですが、大学院（博士前期課程 情報学学位プログラム）への進学その他、先輩たちが就いた仕事には、国立大学法人職員、地方公務員（公立図書館、学校図書館の司書・学校司書、教育委員会も含む）、図書館サービスのコンサルティング関係企業、映像・音楽エンタテインメント関係企業、ゲーム業界の企業でクリエイターなど多彩なものがあります。



現在の原研究室ゼミ生（昨年12月撮影）

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、ゼミで良いテーマに洗練させていきますので、まずは研究室を訪問して相談して下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

—気兼ねなく発言できる雰囲気—

私たちの研究室は週に1回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週1でおもいっすりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりがないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫折そうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと言っても過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3年生の3月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がりつつ実現したものです。6月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生日にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うとう先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思えます。

（研究室 卒業生 武田未来さん）

情報資源経営専攻 村田研究室

指導教員： 村田 光司
 教員部屋： 7D404
 学生研究室： 7D518
 今年度学生数： 4年生5名
 E-mail: kmurata@slis.tsukuba.ac.jp

2021年度から活動している研究室です。

研究キーワード: アーカイブズ、過去の記憶と情報、歴史学(西洋史)、
 デジタルアーカイブ、文化遺産、古文書・写本、古天文学

受け入れ可能なテーマ(例)

- ・古い時代の記憶(神話や伝承など)・情報・モノ・アーカイブズ・図書館・写本などの形成・管理・利用(過去・現在・未来)
- ・過去の文字資料からのデータ抽出・分析など
- ・有形・無形の文化遺産の資源化(デジタルアーカイブなど)
- ・海外のアーカイブズ

これまでの卒論のテーマ:

災害伝承碑の活用、まちかど博物館、法帖デジタルアーカイブ、日本刀の逸話、妖精伝承、アーサー王伝説、ローマ皇帝の記憶、筑波大の都市伝説、小宮祭のアーカイブズ、ジャズのアーカイブズ、など

教員の研究テーマ

- ・ヨーロッパ古代・中世のアーカイブズ・古文書写本・貨幣など歴史資料研究
- ・過去の天文記録を用いた地球環境史の研究
- ・古代・中世のモノ資料(建築物、印章など)の研究資源化(デジタルアーカイブ)
- ・日本の海外調査記録アーカイブズ
<https://researchmap.jp/kojimurat>

ゼミについて

- ・全体ゼミ月2~3回、個人面談月1+回
- ・3年のうちはアーカイブズ、記憶関連の基礎的文献を読みます
- ・4年生は研究の進捗発表と議論
- ・希望があれば、たまにどこかに出掛けます
- ・ゼミ内容やイベントは学生の希望に応じて決まります



▲ギリシャでの調査風景

▼徳川ミュージアム



年間スケジュール(仮)

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
	仮配属 文献購読・発表			研究 テーマ 決定		着手発 表		施設体験など		中間発 表			卒論発 表



「知識情報・図書館学類誌MILK」Web公開中。
過去のバックナンバーのご覧いただけます。
<https://milk.klis.tsukuba.ac.jp/>
ご意見・ご感想お待ちしております！

Credit

知識情報・図書館学類誌MILK研究室紹介号

- 発行者 鈴木伸崇（知識情報・図書館学類長）
- 発行日 2024年10月1日
- 編集部 大橋桃香 岸岡あや 吉岡秀人
- 協力 知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方